

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-133	15-322	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Alcohol Interventions Among Underage Drinkers in the ED: A Randomized Controlled Trial. 救急治療部における未成年の飲用者間のアルコール介入:無作為対照試験。		
執筆者		
Cunningham RM, Chermack ST, Ehrlich PF, Carter PM, Booth BM, Blow FC, Barry KL, Walton MA.		
掲載誌		
Pediatrics. 2015 Oct;136(4):e783-93. doi:		
キーワード		PMID:
短期介入、救急治療部、未成年、コンピュータ短期介入		26347440
要旨		
<p>目的 本研究は、救急治療部(ED)をベースとする短期介入(BI)(コンピュータまたはセラピストによって提供される)および救急治療の後のセッションの有無の有効性を12ヵ月にわたるアルコール消費と結果に関して調査した。</p> <p>方法 危険な飲酒のスクリーニングテストで陽性の患者(年齢14-20歳)が、以下のようにランダム化された:短期介入群BI(n=277)、セラピストによるBI(n=278)または対照群(n=281)。3ヵ月の追跡調査の後、参加者は、ED後のBIセッションまたは対照を受けるためにランダム化された。動機に面談することを組み込んで、BIはアルコール消費とその帰結について対処した。その帰結には、飲酒運転する(DUI)こと、アルコール関連外傷、そして他の同時に服用する薬物使用も含まれている。コンピュータによるBIは、オフラインのFacebookのスタイルを整えられたプログラムであった。</p> <p>結果 スクリーニングテストを受けた4389例の患者のうち、1054例の患者は危険な飲酒と判断された。そして、そのうちの836人が無作為対照臨床試験に登録された。回帰モデルは、第1アウトカムに関して介入条件の主要効果(対照に比べて)と交互作用効果(ED状況*ポストED状況)を調べた。セラピストとコンピュータによるBIは、3ヵ月後のアルコール消費、3と12ヵ月の飲酒による帰結、12ヵ月後の処方薬物使用を有意に減らした;コンピュータBIは、12ヵ月後の飲酒運転の頻度を減らした;そして、セラピストBIは、12ヵ月後のアルコール関連の外傷の頻度を減らした。ポストEDセッションは6ヵ月後の飲酒による帰結を改善した。そして、その効果は救急医療部ではBIを受けなかった人々にも有益だった。</p> <p>結論: EDでコンピュータまたはセラピストによって提供される一回のセッションのBIは、未成年の飲用者のために有効である見込みを示した。完全にオートメーション化したコンピュータのみによるBIが有効との結果は、特に将来の実施の容易さを考慮すると興味ぶかい。</p>		